

みやぎ環境学習パートナーシップ推進事業受託

宮城県からの委託事業『平成17年度みやぎ環境学習パートナーシップ推進事業』を受託しました。事業の目的は、県内で環境保全活動に取り組む機関・団体・個人・教育関係者等のネットワークづくりです。

この事業の一環で、10月14日(金)、15日(土)には夢メッセみやぎで開催された『いいモノテクノフェア2005』内に、「自然エネルギー・省エネルギー」をテーマにした県民学習コーナーを出展しました。

今後は環境学習・環境教育をテーマにした交流会や会報の発行等を計画しています。



「いいモノテクノフェア2005」の様子



展示パネルで学習しながらクイズラリー



やまが苦しんでいる

相変わらずの緑の面積が減ってきています。国土交通省のデータによれば、農地が宅地や道路に変わってきているのがおおいそうです。山よりの地域では、もうたがやさないでほっておく農地の割合がどんどんふえています。

さて、森林の面積のへり方が少ないのは、これまで山の木を切って田や畑に変えることが少なくなって、ゴルフ場やレジャー施設に変えられるぶんだけが増えているのだそうです。一方で、森や林は新しく植林したり、間伐など手をくわえる必要がありますが、これもいろいろな理由からどんどん行われなくなってきているそうです。いろいろな方から「山が荒れている」という話を聞きます。山を守る人や田や畑をつくるひとたちが高齢化している、少なくなっているなども原因があるらしいのですが、このあいだの選挙をみても、「都市部さえよければ」というニュアンスの言葉が勢いよくとびかっていたのが心配でした。これでは、森や林はどうなるのでしょうかと考えたりもしました。森や林や田んぼや

畑は、大都市で暮らしている人たちを守っているのではないのでしょうか。

塩野米松 文、村上康生 絵 「1000000ぼんのブナの木」(ひかりのくに)を読んでみましょう。

季節のうつりかわりの中でどうぶつたちはいきいきと生きています。時間の流れをわすれさせるほどリズムカルにブナの木もどうぶつたちも生きています。さあ、こどもといっしょに本の中のこぐまのこっこうをまねして、「かりこり むしゃむしゃ」とか「ふんぐふんぐ」などというとても上手にまねされたことばを読んでみましょう。「だれもいないひとりぼっちのときにそっとみみをすましてごらん」ねるまえにこどもたちに読んであげましょう。こどもたちのころのなかにテレビとはちがうやさしい音がふりつもっていくはずで

